

スローテンポ通信

第 34 号

2020年5月27日

発行:スローテンポ書店

〒323-0023 小山市中央町 3-7-1 ロブレ地階

☎ 0285-32-7211

Eメール usagimokamemo@gmail.com

ブログ『うさぎもかめも』

<http://usagimokamemo.blog.fc2.com/>

☆ スローテンポ書店 は普段どおりに営業しております。懇話会、実用文教室、ともに変わらず続けております。

☆ 案内パンフ『**新型コロナウイルスを考えるヒント 10冊**』ができあがりました。好評の『**時代を見直す 10冊**』も書店にあります。

今、注目の本 新着から

○『**新型コロナ 19 氏の意見**
われわれはどこにいて、
どこへ向かうのか』

農文協編 農文協発行
2020年5月 1000円+税
☆☆☆☆☆

農文協編集部が、広い分野の人々に寄稿を求めたら、19人から集まった。感染症の専門家に限らず、人類学者、探検家、哲学者、ジャーナリスト、料理人などが、ジャンルの壁を越えた視点から自論を展開する。それは、いつもテレビに登場するコメンテーターたちの発言よりも、格段におもしろく新鮮だった。

日本の今を冷静に見つめるために、多くの人に読んでもらいたい。

○『**東京五輪がもたらす危険**』
—いまそこにある放射能と健康被害
東京五輪の危険を訴える市民の会 編著
緑風出版 2019年 1800円+税
☆☆☆☆☆

放射能の危険を煽っているかのようなタイトルであるが、読んでみると、とても冷静に論理が展開されている。

各国では東京五輪反対の動きがある。「フクシマでオリンピック? 気が狂ったか?」という映画まである。

民主主義は、少数意見も、一見極端に見える意見も無視してはならない。それは、新型コロナについても言える。

* * * *

新型コロナ ウイルスたちは 何を思っているだろう

ウイルスの立場で考えてみた。
オレたちが、人に感染してその人が死にしまったら、オレたちも生き延びられない。感染者も生きてくれなくちゃ困る。何かを間違えて、人を殺すようになってしまった。その間違いは、どうして起きたんだ?

もともと自然界では、ウイルスは動物に住み着いて平和に暮らしていた。そこへ人間が侵入し、動物を捕まえ食料にした。食うだけでなく家畜化し、さらに乳絞りまで始めた。

家畜との濃厚接触が、人と新しいウイルスとの接触のチャンスを増やした。特に乳は体液そのものだ。牛の乳をそのまま飲んだり触れることは、感染のチャンスを格段に増やした。

生態系の破壊は、農業にもいえる。植物の気持ちを無視して、住みよい故郷から強制移住させる。効率優先で同じものをそろえて植える。農地を開くために、木を切り倒す。農業の誕生と開発によって生態系が破壊され、新種の生物やウイルスが生まれる。そして、人間との接触のチャンスを増やした。

ウイルスは動物と共存しなければ生存できないのだから、人に感染しても人を殺そうなどとは思っていなかった。世代交代する中で、たまたま人を殺す変なやつが生まれた。

開発により生態系の破壊が進むにつれて、新型コロナウイルス感染症が急速に増えている。自然界の成り立ちを考えれば当然のことだ。悪いのはウイルスではなく人間であった。

新型コロナが、あたかも悪魔かテロリスト集団かのように表現される。人類の敵だと決め付け、敵との戦いに人々を駆り立てようとしている。

人類は古来から戦争に明け暮れた。勝利すれば、人もモノも収奪し、敗北すれば死か奴隷しかなかった。その繰り返しのうちで、勝ち得た財産や権力を、手放したくなかった。自ずと強いものへ権力が集中していった。

その後、ヨーロッパでは、近代になって個人主義という言葉が生まれ、個人

の利益追求をとことん美化するようになった。自由、権利、義務の言葉が生まれ人権の概念もできあがった。社会契約論が展開され、政治は利益の分配が目的となった。経済学という学問は、いかんにして利益を増やすかを追求する。警察も裁判も個人の利益を守るためにあり、科学は、さらなる利益追求のために利用されるようになった。

そして、利益追求のために自然や他人から収奪することまで美化された。利益追求をとことん美化するから、それを邪魔するものは敵とみる。「ウイルスは敵だ」の発想は西欧近代の発想ではないだろうか。

一方、アジアには違う発想があった。作物は天の恵みであり、人々の間で仲良く分配されてきた。自分を中心に見るのではなく、自然界の一部として自分自身を見た。自然界には秩序があり、敵も味方もなかった。

皇帝も殿様も学問を積み、平和で豊かな国づくりを自分の天命だと心得ていた。そこには、征服、支配という発想はなかった。心得のない皇帝や殿様には天罰が下った。だから、人の命と平和が守られてきた。アジアの人口の多さは文明の豊かさを表すといってもよい。

自然界から収奪することを開発といって美化するのはもう止めよう。無理な開発は病気を招き人が死ぬ。ウイルスに感染して人が死ぬのは、人類が犯した罪の結果なのだ。

消毒の徹底、感染源の完全隔離、抗ウイルス薬やワクチンの開発などに過度に期待しているうちは、ウイルス感染爆発はなくなる。新型コロナの次が必ずやってくる。

ウイルスは敵ではない。新種のウイルスとの急激な接触がいけないのだ。少しずつ接触すればなじんでいく。抵抗できる範囲でスロー感染をくり返す。そうやっていけば共存できる。

そのためには、急激な開発を見直し、生態系への影響を最低限に抑える。殺虫剤や人工化学物質、プラスチックなどで自然界に余計な負荷をかけない。産業、生活、政治、経済など、あらゆる領域で発想の転換と、価値観の修正が迫られる。

(ブログ『うさぎもかめも』より改編)

* * * *



スローテンポ書店

新型コロナウイルスを考えるヒント、
子どもと対話できる本などそろえました。

小山駅前 **ロブレ地階**

営業:火~土 13時~19時 (日月祝日休み)

☆ **懇話会** 自慢話型、傾聴型、ディベート型でなく、課題解決型を。水曜日午後5時~7時、参加無料。

☆ **実用文教室** 伝えたいことを、伝えたい人に、正確に伝える文章を目指します。木曜日午後3時~5時、参加費は資料代含めて、1回500円